

# 「良書ご案内」

書籍名	サイレント・ブレス	著者名	南 杏子
出版社名	幻冬舎文庫	発行年月	2018年7月

NHK俳句のゲストとして南杏子氏が出演していました。彼女の話は大変面白く、その原点は彼女のキャリアにありそうです。

1961年生まれ、25歳で結婚、夫の転勤に同行しイギリスで出産、子育てを経験します。帰国後、将来1人でもできる仕事として医療者を目指し、33才で大学の医学部へ進学、38才で大学病院の老年内科で働き始めます。その後、再び夫の仕事のためスイスで暮らすこととなります。帰国後終末期医療に携わる傍ら、カルチャー教室の小説講座に通い、55才で作家デビューを果たします。何と凄まじいバイタリティーの持ち主なのか…

在宅医療現場の経験を小説として発表します。本書は彼女のデビュー作です。主人公は大学病院から、在宅で最期を迎える患者専門の訪問クリニックへの異動を命じられます。本書を手にする方のため、内容は語らないことにします。読者の理解をはかるため、日本の在宅患者周辺の現状を紹介します。

●年間の死亡者数は2040年がピークで160万人超と予測されています。半数近くの人が自宅で最期を迎えたいと望んでいます。在宅診療の需要は今後も間違いなく増えますが、供給が追いつきません。「在宅の看取り」を手掛ける診療所、病院は少ないのが現状です。

●一時胃ろうを作る人が多くいました。現在は胃ろう造設をする人は減少傾向にあります。つまり、経口摂取が困難になっても、医療的アプローチをとらずに、経口摂取のままで、死を迎える人が増えてきました。なぜ？海外では高齢で終末期を迎えたら、胃ろうや人工栄養で延命を図ることは非倫理的だと、国民の多くが認識しています。胃ろうも点滴もしません。日本でも、ようやく「終末期の死生観」が普及してきたように思われます。

ビジネスマンは普段忙しく、油断していますが、親の介護問題、認知症、胃ろうの判断、訪問診療の医師の確保、看取りの場所等、その一大事が急に、確実に押しかけてきます。日頃から心の準備をしておくことが極めて大切だと思います。

岩 城

今年の大河ドラマは平安時代の女流作家、全くタイプの違う清少納言と紫式部が出てきます。7/7に結果が決する都知事選でも小池現知事と蓮舫氏が対決!そこに石丸氏(安芸高田市元市長)らが絡む構図。どんな戦いが繰り広げられるのか?!

東京都は42万を超える企業が集中、約1400万人の都民が暮らす。財政規模は中欧オーストリアの23年度の国家予算約16兆3000億円と同規模。潤沢な財政で実現した所得制限なしの高校授業料無償化は東京都の教育政策の目玉。しかし、こと子育て関連なので、近隣首都圏3県(神奈川/埼玉/千葉)は東京都との教育格差に頭を悩ませており、危機感を強める。

令和4年度の経常収支比率は神奈川県98.5%、埼玉県96.2%、千葉県95.1%なのに対し、東京都は79.5%。人口も企業も集中する東京都は自由に使える財源が潤沢だから、それが格差の原因という訳だ。そこで気になるのが、出生率0.99の東京都の今後の行く末だ。潤沢な財政をバックに打つ手に期待したい?動きの遅い政府を待つよりは先手を打つべしと思うのだが。

今年4月に公表された「人工戦略会議」では東京都の16区がブラックホール型自治体と言われ、人を吸い込んで減らしていく、つまり人口増加を他の地域からの人口流入に依存し、出生率が低い地域として命名された。実は近畿圏では、大阪市、京都市もこの型。東京都民は、明治神宮外苑の再開発問題や築地市場の跡地活用問題などが気になるのだろうか?仕事柄、高齢者施策も気になる。さて、7/7は今年スタートのオリンピック開催地フランス国民議会総選挙の決戦投票日。どこの国も誰になっても、前途多難!難題山積!が、

発行所:株式会社ライフデザイン研究所

国会議員に女性が少ない日本で東京都知事が女性というのも悪くない。

所在地:〒541-0048 大阪市中央区瓦町3-4-87サビビル2F

Tel 06-4708-6844 Fax 06-4708-7067 編集人 伊藤